

<建築展 24 日韓合同学生ワークショップ>

(九州支部大会 in 北九州同時開催)

事業報告書

於 北九州国際会議場



(公社)日本建築家協会
九州支部北福岡地域会
JIA国際支援活動支部助成事業事業

2100年 に 建つ
建築

日韓合同学生ワークショップ
第52回まちづくり研究セミナー
建築展 vol.24

9月3日(土) 10:00-17:00 中間講評会
9月23日(金) 15:30-17:30 セミナー「生きていくための場所をどう設計するか」
9月24日(土) 9:45-17:00 最終講評会、表彰式
講師: 2021年度 JIA新人賞受賞者 木村吉成氏 木村松本建築設計事務所

2022年9月24日

九州支部

■事業名 建築展24・日韓合同学生ワークショップ、第52回まちづくり研究セミナー

■主催者：公益社団法人日本建築家協会九州支部北福岡地域会

■共催：北九州市、まちづくり研究セミナー

■事業概要：北九州市とその周辺の建築家で構成されている北福岡地域会では、建築・まちづくりを通して社会貢献する活動の一環として、北九州周辺地域の大学と「建築文化及び友好・交流についての協定」を結んでいる韓国の大学との日韓合同学生ワークショップを毎年開催してきました。今年度の日韓学生ワークショップは、コロナ禍に風穴を開けるべく活動を活発化し、リモートと一部対面のハイブリッド方式で行いました。また最終講評会とセミナーは対面開催（韓国チームはリモート）となりました。参加チームは、釜山周辺の大学と、日本の大学を対象とします。

■事業の目的：日韓の建築文化の違いを肌で感じてもらいながら、国際感覚を持った次世代を担う建築家の育成や、建築文化の創造・発展に貢献する事を目的としています。「未来への結束～SDGs」をテーマに各都市が直面するコンパクトシティやSDGsへの建築の取り組みを題材とします。今回の課題は、北九州市が策定している【2050まちづくりビジョン「まちごとワークプレイス」】への提案として、100年後の都市の在り方を模索すべく【2100年に建つ建築】としました。2100年の未来の建築を要求するのではなく、「今」計画し、気候や社会環境の変化を見据え2100年以降も経ち続ける建築を出題しました。

■実施場所：7月16日～9月3日：リモート会場（北九州市、韓国釜山、福岡市、大分県、京都府）

9月23日・24日：北九州国際会議場 国際会議室、韓国釜山

■参加者：九州支部会員 50名
北九州市立大学 4名
九州産業大学 9名
九州工業大学 9名

日本文理大学 12名(2チーム)
釜山大学 6名(韓国)
東亜大学 6名(韓国)
慶星大学 13名(韓国・2チーム)
その他大学教授他関係者 11名

■実施期間：2022年7月16日～2022年9月24日

■日程：7月16日 課題発表会(リモート)

7月30日 コンセプト発表会・講評会(リモート)

9月3日 中間講評会(リモート)

9月23日 セミナー(九州支部大会1日目)(ハイブリッド)

9月24日 最終講評会(九州支部大会2日目)(ハイブリッド)

■報告

○課題の意図

日本のみならず、世界中の成熟都市が抱える、これからの都市の歩み方が課題となります。北九州市では歩み方の指標として「2050まちづくりビジョン」が策定されました。北九州市が直面する、人口急減や超高齢化社会を迎える中で、持続可能な都市形成を行うためには、効率的な都市整備や生活拠点の魅力向上を図ることが重要だと示されています。講師の木村先生による「2100年に建つ建築」は、2100年に建てる建築を考えるのではなく、「今」計画し2100年にも実在する建築のあり方の提案を求めるものであります。2100年の北九州は紫川の水面レベルが800mm上昇し、人口が半減するというデータがあります。

困難な課題ですが、日韓で直面する共通の課題によるワークショップを通して、日韓の建築文化の違いを肌で感じてもらいながら、国際感覚を持った次世代を担う建築家の育成や、建築文化の創造・発展に貢献できたことを報告いたします。

○ワークショップ・国際交流について

コンペではなく、ワークショップ形式にて長年開催しております。日韓の学生のお互いの文化やアイデアの違い、講師による指導により相互に触発されながら、中間講評会・最終講評会へとブラッシュアップすることを狙いとし、ワークショップ形式を選択しています。また、約3ヶ月のワークショップを通して、学生間の一体感や連帯感、日韓相互の会話などが生まれ、国際交流の一助となれば本望です。今季から、釜山建築士協会の依頼により「釜山学生建築フェスタ」へ受賞作品を出展することになっており、ますます国際交流の輪が広がっています。20年来培ってきた日韓合同学生ワークショップの成果であると考えてます。

○最終結果（資料参照）

本事業は、講師によるワークショップを主とする事業のため、提案作品の優劣は重視していませんが、参加者のモチベーション創出のため賞を授与しています。

また、本年はコロナ禍の開催のため、日本チームは現地にて講評が可能でしたが、韓国チームはリモートによる講評であった為、講評条件に差があったことも記載しておきます。

以下に、最終結果を記載します。

- ・最優秀賞： 釜山大学
- ・木村吉成賞： 日本文理大学A
- ・JIA松山支部長賞： 九州産業大学
- ・まちづくり研究セミナー賞： 九州工業大学
- ・JIA奨励賞： 東亜大学

講評者：木村吉成（2021年度JIA新人賞受賞者）

松山将勝（JIA九州支部支部長）

尾道建二（九州共立大学名誉教授）

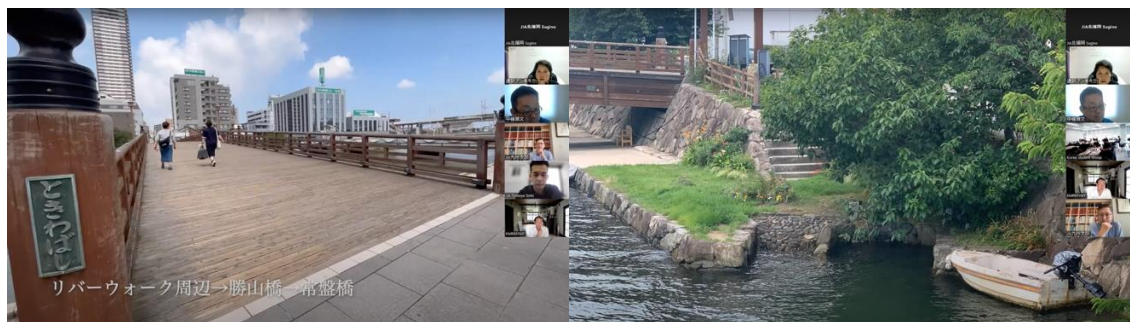
岩下陽市（九州職業能力開発大学講師）

■報告書作成者：九州支部 北福岡地域会 塩釜 直人

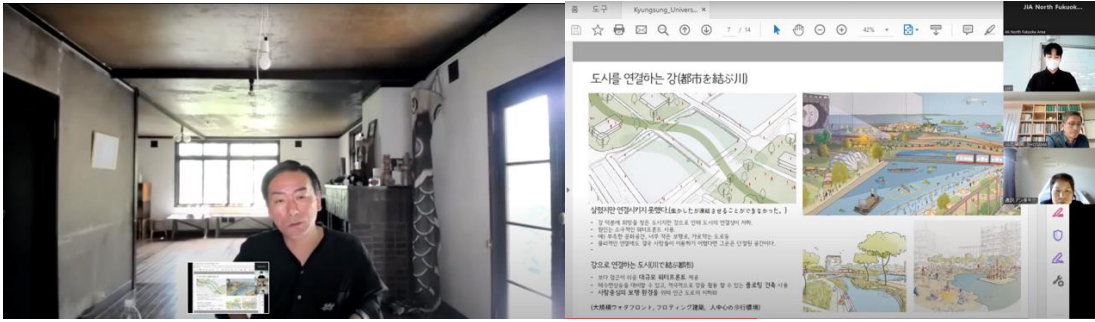


JIA 国際交流報告写真

○木村吉成氏による課題発表会（7月16日）



○コンセプト発表会・講評会（7月30日）



○中間講評会(9月3日)

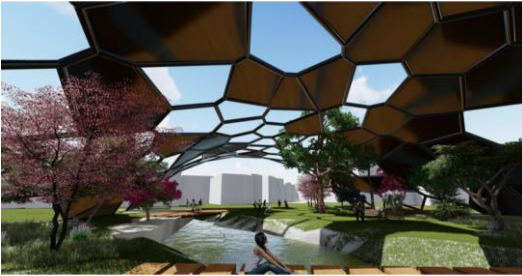


○セミナー (9月23日)





- 最終講評会
- 北九州市立大学



■植栽の給水としての川水の利用

橋の上を流れる小川は紫川の水を利用している。小川は単なる空間を演出する造形材料だけでなく、様々な種類の植栽の維持管理を行う給水システムでもある。紫川の水をくみ上げて流れる小川からその日の気温、湿度に合わせて散水が行われる。小川を流れ終えた水は再び川へと還される。

This creek uses water from the incorporated Purple River. This is also the water supply system for the plantings, and water is sprinkled on the surrounding trees according to the temperature and humidity of the day. Automatic management of the plantings is done here.



□慶星大学 B

5. Example of use

다양한 개인적 요구 반영 가능한 공간을 설계하였다.
 모듈을 통하여 필요에 따라 다양한 공간을 제공한다.
 또한, 모듈의 조합 및 분리가 가능한 특성상 여러 공간의 확장과 축소도 할 수 있다.

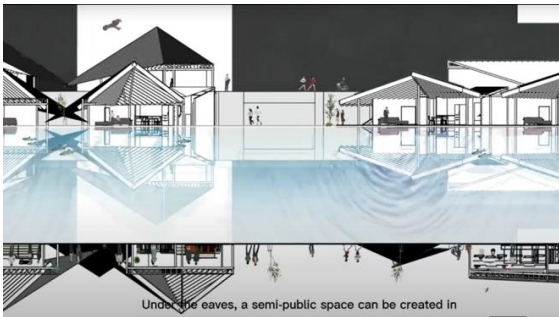
6. Diffusion of modules

지금까지로부터 2100년까지, 그리고 그 이후까지 사용할 수 있는 공간을 위해 변형과 분리가 자유로운 모듈화된 모듈을 활용한다.
 그렇기에 시간이 지나서 필요로 하는 공간이 바뀌어도 유연적으로 공간을 만들 수 있다.

5. Example of use

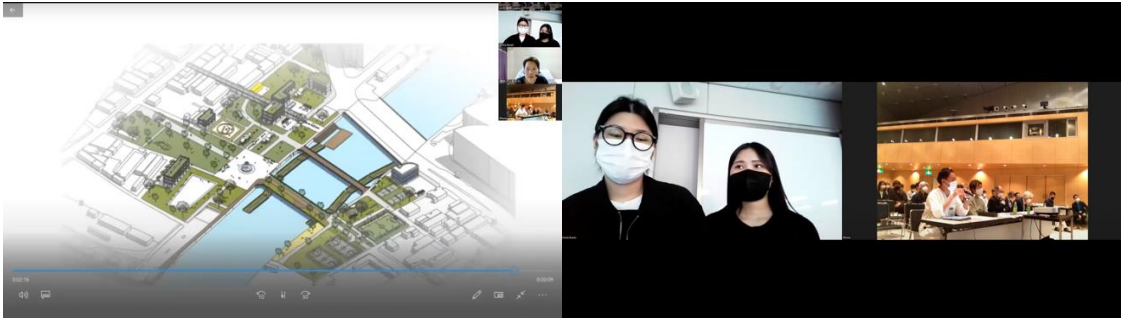


□日本文理大学 A

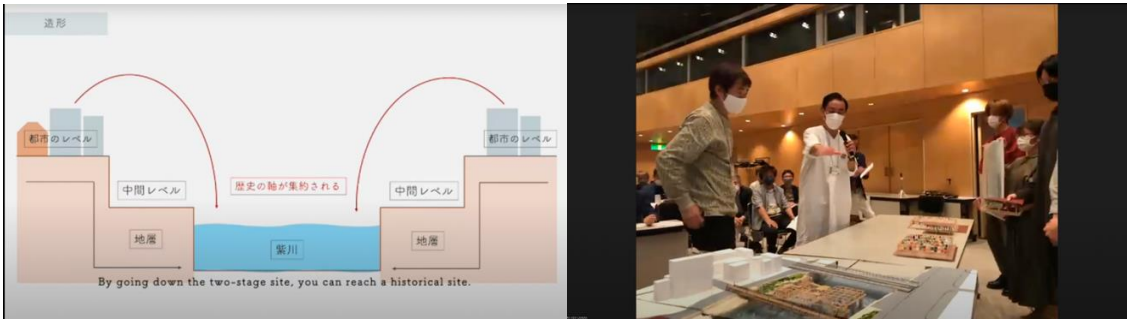


□慶星大学 A





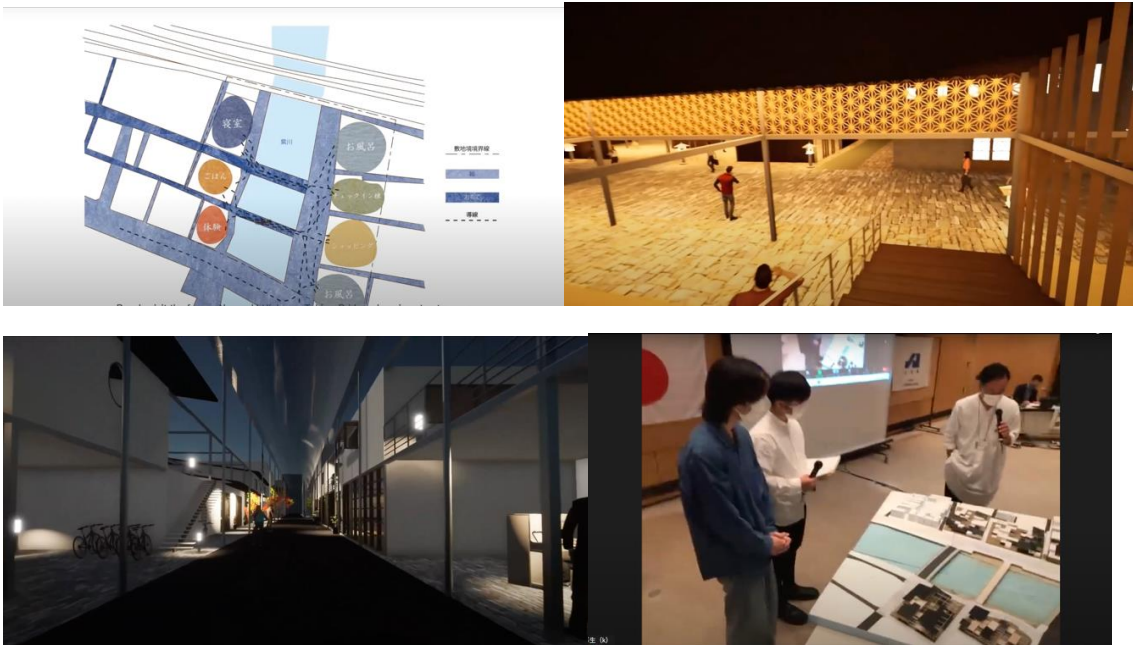
□日本文理大学 B



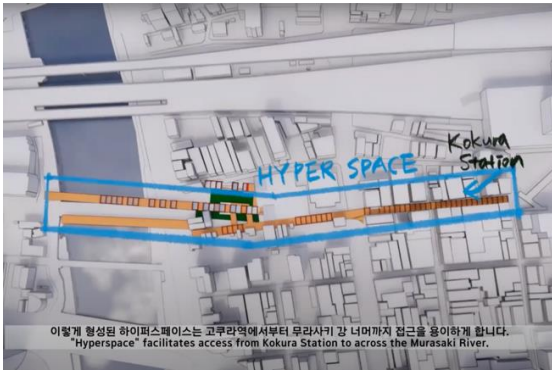
□東亜大学



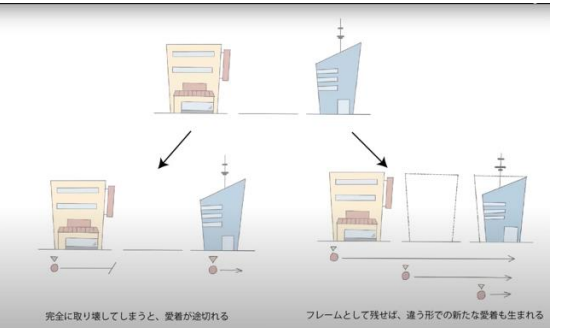
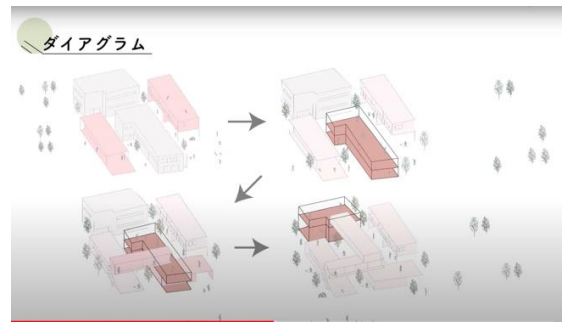
□九州産業大学



□釜山大学



□九州工業大学



□受賞式

□最優秀賞 釜山大学



□木村吉成賞 日本文理大学 A



□JIA 松山支部長賞 九州産業大学



□まちづくり研究セミナー賞 九州工業大学



□JIA 奨励賞 東亜大学



□北九州市立大学

□日本文理大学 B



□韓国会場（釜山大学）

□釜山大学 劉教授



2100年に建つ建築

建築展 vol.24 日韓合同学生ワークショップ

今回みなさんに設計してもらいたいのは「2100年に建つ建築」です。
計画地は小倉駅の西に位置する、蔡川の川辺エリアにしました。

まず、これは「未来」に建てられる建築ではありません。
2022年の「現在」に設計され、78年後にもそこに「建ち続けている」建築です。
建ち続けるというのは「長持ちする」ということだけを意味するものではありません。
人々が愛着を持って「使い続け」られる建築です。

どんな「人」が、どのような「仕組み」で「使い続ける」のか？
徹底的に、リアリティを考慮してください。
78年後の人口はどれくらいか？その頃の気候はどうなっているか？
そんなことも想像してみてください。

小倉駅前地区では、2050年のまちの姿を描いたビジョンが提示されています。
また、長く人々に愛されてきた且過市場も2028年度をゴールと定めた再整備事業が始まってゆきます。
都市の姿はこの先、大きく変化を遂げてゆくことでしょう。

しかし都市というものは本来、様々な役割が集まった場所であるはずで、
そしてその役割が多種で、また相補的であればあるほど豊かであると僕は考えています。
(それは韓国も日本もきっと同じでしょう。)

皆さんが描く小さなエリアの姿が、その都市全体のイメージとなってしまう、
そんな力強い提案を期待しています。

木村吉成

- 9月3日(土) 10:00-17:00 中間講評会
9月23日(金) 15:30-17:30 セミナー「生きていくための場所をどう設計するか」
会場：北九州国際会議場 国際会議室 (予定)
9月24日(土) 9:45-17:00 最終講評会、表彰式
会場：北九州国際会議場 国際会議室 (予定)
※新型コロナウイルス感染状況により開催地を変更する場合がございます。



2021年度 JIA 新人賞受賞
木村松本建築設計事務所
木村吉成

参加チーム

- | | |
|-------------|-----------|
| 九州産業大学 | 釜山大学 |
| 九州工業大学 | 東亜大学 |
| 日本文理大学 | 慶星大学 |
| 北九州市立大学 | 東西大学 (未定) |
| 近畿大学 (未定) | 釜慶大学 (未定) |
| 九州女子大学 (未定) | |

九州支部北福岡地域会会員

- | | |
|--------|--------|
| 塩田 典生 | 白川 直行 |
| 安東 崇夫 | 杉野 友紀 |
| 安東 秀夫 | 鈴木 基正 |
| 石垣 充 | 平 憲治 |
| 石川 哲夫 | 高橋 千年 |
| 石塚 直登 | 高瀬 松之助 |
| 瓜生 雅勝 | 高橋 雅彦 |
| 衛藤 衛 | 高瀬 和久 |
| 大久保 裕文 | 戸村 一樹 |
| 大橋 久一 | 豊川 裕子 |
| 小川 宏 | 水澤 正成 |
| 小塚 光晴 | 中塚 雅文 |
| 加藤 史衛 | 野田 幸三郎 |
| 金子 英造 | 服巻 良樹 |
| 久保 直 | 福田 展淳 |
| 久保 隆一 | 藤本 孝行 |
| 關谷 平一郎 | 吉森 弘一 |
| 後藤 友哉 | 松岡 伸二 |
| 佐久間 治 | 松島 逸人 |
| 佐藤 真紀 | 三迫 靖史 |
| 塩釜 直人 | 瀧井 輝吉 |

九州支部北福岡地域会所属事務所

- | | |
|--------------------|--------------------|
| (株)ATOM建築設計室 | 平建築設計事務所(有) |
| RA&D設計室(建築) | (株)タカシマ建築設計 |
| (株)安東建築設計事務所 | (株)高橋環境建築設計 |
| 衛藤建築研究所 | (株)豊川設計事務所 |
| (有)大久保計画アトリエ | (株)高野設計事務所 |
| (株)小川建築設計事務所 | (株)トーンズ設計 |
| (株)加藤建築事務所 | (株)東郷建築事務所 北九州支所 |
| (株)金子英造建築設計事務所 | (株)東洋アンドアソシエイツ |
| (株)木賀設計事務所 | (株)中務雄文建築設計事務所 |
| (有)橋本建築設計事務所 | 野田建築設計事務所 |
| (株)久保建築設計 | (株)古森良一建築設計事務所 |
| (株)熊平建築設計事務所 | PRAISE 一般建築士事務所(株) |
| (株)伊野建築設計事務所 | (株)廣井設計 |
| (株)ことう計画・設計 福岡営業所 | (株)洋建築計画事務所 |
| (株)小林建築設計事務所 | ワークボックス 一般建築士事務所 |
| (株)佐藤真紀&PUN建築設計事務所 | 北九州市立大学 |
| (株)江川直行アトリエ | 九州工業大学 |
| (有)形野建築設計事務所 | 西日本工業大学 |
| (株)スズキ設計 | 九州女子大学 |
| (株)西原交通建築事務所 | |

